

広野町ふるさと創生大学通信 vol. 4

●「第4回 広野町ふるさと創生大学」を開催しました。

8月号から開始させていただいたこの「広野町ふるさと創生大学通信」。

今回は10月5日に開催した第4回の講義風景を掲載します。

第4回講義は、ジャーナリスト、福島県男女共生センター初代館長 下村満子 先生による『生き方を考えるー今、なぜ「生き方塾」なのか』と題して開催されました。

今回は講師が震災後に開塾した「生き方塾」の経緯、震災後から毎年3月11日にいわき市の海岸で行っている「福島を忘れない！祈りの集い」の取り組みなどを講義しました。

●広野町ふるさと創生大学 修了式

教室生を代表して石井三郎氏が修了証書を授与しました。



第4回講義の様子



遠藤学長（町長）より修了証書授与

●「第3回広野町ふるさと創生大学」受講生から感想が寄せられましたので何件かご紹介いたします。

講義：「ほっとけ心のアップレ介護」  
講師：講談師 田辺 鶴瑛 先生

- ・介護する側は笑顔でいる事が大切→気持ちが良い事が大切なのだろうと理解しました。
- ・介護する人は本音で語れ→本音で介護しないとうつになるとわかりました。
- ・介護に対する考え方→やってあげるのだという考え方を改めて、相手になっていただくというふうを考える。
- ・介護は一人ではがんばらないで、プロに任せることが大切。
- ・手を出さない、お金も出さない家族、親族は何も言わないこと。
- ・認知症カフェ、近くにあれば良いと思った。
- ・どうしても介護は大変なイメージがありましたが、頑張りすぎず、自分のストレスにならない程度でいいのだと思いました。
- ・介護する時、嘘も方便→嘘をつくことは良いイメージはありませんでしたが、そこは臨機応変にしていくことが大切だとわかりました。
- ・介護する人の意識を変える→気持ちを抑えない。無理しなくて良い。
- ・みんなで介護する→家族みんなで介護すること。見守る。一人に負担を負わせないこと。
- ・高齢者を抱える者として認知症への対応は必ず生じてくる。今回の体験談を聞いたことで介護の大変さがわかった
- ・田辺先生は若くして義父の介護を全うし終えた。今後、夫の介護もあるだろうが、若いというも力で1年1年できることが減ってくる不安ある。自宅介護が主になる今後は、せめて自分だけでも筋力、知力の衰えをゆっくりにするべく何かをしなくてはと思いました。
- ・人は、とにかく自分で声を出すことが大事。→健康維持に良いということがわかりました。
- ・実体験のお話で大変参考になりました。
- ・まったく面白かった。本当のことばかりで、聞いていても「うん。うん。」と頷くことばかりで大変良かったです。来年も話を聞いてみたい。大ファンになりました。

問 広野町生涯学習課（公民館内）  
☎0240-27-3244

広野町婦人会のお知らせ

● 双葉郡連合婦人会交流会  
（パークゴルフで交流）を開催して

広野町婦人会会長 木幡 綾子



双葉郡連合婦人会交流会は、震災前も開催していましたが、震災後は昨年から再開し、出来る町村は単独で、出来ない町村は2町村合同で協力して開催することになりました。昨年は川内村会場で『震災後の現状を学ぶ』という目的で川内高原農産物栽培工場を見学、遠藤雄幸村長の「被災地からの脱却を目指し」という講話がありました。

今年は、広野町会場が決定していましたが、何ヶ月も前から遠藤智町長、関係各位の皆さんにお願い、協力を頂き、当日を迎えることが出来ました。そして、最高のパークゴルフ日和となりました。遠藤町長には公務が重なる中「双葉地方の復興・展望について」の講話をいただきました。本当にありがとうございました。

広野町婦人会の皆さんは、前日の会場作り、豚汁の材料刻み、当日の豚汁作り、車の誘導受付、集金を担当していただき、広野町婦人会員一丸となっておもてなしをしました。

他町村の婦人会の皆さんは、まだ避難されている方も多く、筑波市、小野町、三春町、いわき市などから集まりまして、総勢110人の参加でした。午前9時30分受付、午前8時前には次々と姿が見えはじめ、予定どおり午前10時にはパークゴルフ大会開始となり、秋晴れの中、皆さん気持ち良い汗を流しました。昼食時には豚汁をいただき公民館子ども茶道教室の皆さんが点てた美味しいお茶を味わいました。表彰式には郡婦連で用意してくれた心のこもった商品が並び、同点の時はじゃんけんして順位を決めるなど賑やかな表彰式でした。最後に全員で県婦連の歌を歌って閉会しました。

震災後の広野町での交流会開催、町婦人会で受入にとっても不安でしたが皆さんの温かい御協力が無事終了することが出来ました。復興するにはこのような小さな取り組み、交流の積み重ねが大事なのかなと感じ、会場を受け入れて良かったと思いました。そして、皆さんの温かいお気持ちに感謝します。

